

あいさつ

ある日の1学年の授業です。観察したことから書くことを見付ける力を育むことが目標でした。教師が育てた鉢植えの朝顔をブラックボックスの中から取り出して提示した瞬間、児童は自分が育てている朝顔より遙かに大きいことに気付き、歓声が上がりました。発見や感動を生かし、驚いた理由を交流させながら観察する部分を焦点化することで、色や形、大きさ、手触りなどの観点に沿って観察カードを書くことが出来ました。

観察したことから書くことを見付ける力、観察する対象を焦点化し、見出した観点に沿って書く力（論理的に思考する力）、いずれの資質・能力も他教科や領域等の授業や生活場面でも活用される資質・能力となります。授業を参観しながらこの子達が今後、様々な場面において学んだ力を発揮して書く姿が思い浮かび、楽しみが膨らみました。

私達は、言語能力に関わる資質・能力を洗い出して「学びを推進する力」と規定し、令和2年度から研究主題を『「学びを推進する力」を発揮しながら言語能力をよりよく獲得していく子供の育成－資質・能力の調和的な育成を目指した国語科の授業づくりを通して－』と掲げて実践に取り組み、昨年度からは、「学習内容（国語科固有の資質・能力）をよりよく獲得し、活用できる子供の育成－学びを推進する力を意識した授業づくりを通して－」に発展させて、国語科を中核としながら他教科や他領域への汎用を目指した授業づくりを進めてきました。この研究紀要VOL.47は、今次研究の取組をまとめたものです。

コロナ禍にあったこの3年余りの期間は、教育活動と共に参集型の研修会も制限されてきました。2年前の本校の公開研究会は、参加者を限定した縮小開催だったため、全学級の授業公開及び分科会研究会、講演会を設定した一日開催の公開は4年振りになります。

対面による授業参観や協議、講演の聴講を通して、参会の皆様と共に求められる国語教育について考え、語り合い、未来を担う子供達の確かな成長につながる授業の在り方について深める絶好の機会となりますよう心より期待しているところです。本校の実践や提案について忌憚のないご意見やご指導をいただければ幸いです。

結びに、これまでご指導を賜りました方々並びにご支援いただきました関係各位に深く感謝いたしますと共に、今後ともお力添えくださいますようお願い申し上げます。

令和5年10月

盛岡市立城南小学校
校長 菅野 亨

I 研究主題

学習内容（国語科固有の資質・能力）をよりよく獲得し、活用できる子供の育成

—「学びを推進する力」を意識した授業づくりを通して—

※「学びを推進する力」＝城南小学校で規定した汎用的な資質・能力

II 主題設定の理由

1 研究の経過から

本校では、子供たち一人一人に確かな国語の力を身に付ける授業の在り方を問い続け、昭和45年度から一貫して国語科の実践研究に取り組んできた。

【「研究主題・副題」の変遷】

昭和45年度～	「確かな思考力」と「豊かな創造力」の育成を目指した実践研究
昭和61年度～	「自ら学び・学び合い、確かな国語力を高める学習」
平成5年度～	「自ら学び・学び合い、確かな国語力を身に付ける学習」
平成6年度～	「自ら求め、確かな国語力を身に付ける学習」
平成12年度～	「生きて働く言語の力を身に付ける学習」
平成12～13年度	—伝えたいを大切にしたい言語活動を中心に—
平成14～15年度	—基礎・基本の定着を図る言語活動を通して—
平成16～17年度	—3領域の特性を生かした言語活動を通して—
平成18～20年度	—系統を捉えた確かな言語活動を通して—
平成21年度～	「言葉の力を実感し、学び続ける子供」
平成21～23年度	—基礎的・基本的な知識・技能を活用する言語活動を通して—
平成24～25年度	—付けたい力と単元を貫く言語活動を有機的に結び付けた単元づくりを通して—
平成26年度	—思考を促す学習活動を大切にしたい授業づくりを通して—
平成27年度	—主体的な思考・判断・表現を大切にしたい授業づくりを通して—
平成28年度	—学びの質を高める授業改善を通して—
平成29年度	—思考を広げ、深める授業づくりを通して—
平成30年度～	「言葉とかかわり、言葉でつながっていく子供」
平成30～令和元年度	—言葉の力を生かして、考え、伝え合う授業づくりを通して—
令和3年度	『「学びを推進する力」を發揮しながら言語能力をよりよく獲得していく子供の育成』 —資質・能力の調和的な育成を目指した国語科の授業づくりを通して—

平成30年度以降、研究主題を「言葉とかかわり、言葉でつながっていく子供」とし、国語科において育成を目指す資質・能力を押さえ、子供たちが目的意識をもって主体的に考えたり伝え合ったりする授業の在り方の研究を積み重ね、次のような成果が上がっている。

○付けたい力、言語活動、学習材のつながりを分析し、単元を構想することができた。
○課題解決型の学習過程を重視し、子供が言葉で思考することを柱に据えた単元づくりを行うことができた。

一方、以下のような課題が残された。

▽位置付けた「言語活動」や「思考方法」が子供にとって必然性のある問題意識や課題意識とつながっているか。
▽子供たちが身に付けてきた力が国語科を越えた実の場で活用できるところまで高まってきているか。

こうした経過から、学習指導要領に即して理論研究を重ね、資質・能力をよりよく獲得し、活用できる子供の育成を目指して、実践研究を進めていくこととした。

2 学校教育目標の具現化から

本校の学校教育目標は、「まごころをつくす子」「考える子」「たくましい子」であり、「豊かな情操と真心をもち、よりよい生活を築いていく子供」「学ぶ意欲をもち、協働的に様々な課題を解決できる子供」「健康な体と強い意志をもち、明るくたくましい子供」の育成を目指している。学習指導要領の改訂により、育成を目指す力が「三つの資質・能力」として示されたことを受け、本校では、令和2年度に、この学校教育目標を、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力及び人間性等」の三つの柱で整理した。それが、下に示す「学校教育目標の具現化に向けたこれからの時代に求められる具体的な姿」である。

ここに示した「考える子」の姿を国語科固有の資質・能力に照らし、「国語科で目指す子供像」とした。「言語能力を構成する資質・能力」から、「学びを推進する力」を規定し、国語科を要として「学びを推進する力」を意識した授業づくりを行っていくことで、学校目標の具現化を目指していくこととした。(資料1 令和5年度「城南小学校グランドデザイン」参照-P.27-)

【学校教育目標の具現化に向けたこれからの時代に求められる具体的な姿】

	まごころをつくす子【至誠】 豊かな情操と真心をもち、よりよい生活を築いていく子供	考える子【清明】 学ぶ意欲をもち、協働的に様々な課題を解決できる子供	たくましい子【堅忍】 健康な体と強い意志をもち、明るくたくましい子供
知識・技能	①正義感や思いやりの心を持ち、周りの人に接する。 ②自他の生命を大切にする。	①基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得し、活用する。	①基本的な生活習慣を身に付け、健康で安全な生活を送る。
思考力、判断力、表現力等	③他者と思いや考えを共有し、自己調整しながら、状況に応じたふさわしい判断をする。	②筋道立てて考えたことを、言葉を通じて伝え合いながら多面的に検討し、表現する。	②有事を意識し、冷静で適切な判断に基づいて行動する。
学びに向かう力・人間性等	④仲間と共によりよい生活を求め、その実現に向けて取り組む。 ⑤美しいもの、気高いものに心を動かす。	③協働的に学び、集団としての学びの意味や価値を実感する。 ④学びを振り返り、次の学びへの見通しをもつ。	③運動する楽しさや喜びをもち、自ら進んで運動に取り組む。 ④目標に向かって最後まで粘り強くやり抜く。

《国語科で目指す子供像》

- ① 言葉の特徴や言葉の使い方を理解し、使うことができる子（知識及び技能）
- ② 筋道立てて考え、伝え合い、思いや考えを広げることができる子
(思考力、判断力、表現力等)
- ③ 言葉で伝え合うことよさや仲間と学ぶよさを実感できる子(学びに向かう力、人間性等)
- ④ 学びの成果を自覚し、他の場面でも使おうとする子(学びに向かう力、人間性等)

国語科を要として、他教科や他領域でも「学びを推進する力」を意識した授業づくりを行い、学校目標の具現化を目指していくために、各学年で「言語能力を高めるためのカリキュラム・マネジメント」を作成し、活用を図っていくこととした。(資料2「言語能力を高めるためのカリキュラム・マネジメント」参照-P.28-)

3 国語科教育の今日的課題から

学習指導要領の国語科の目標は、「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを目指す。」となっており、国語科において育成を目指す資質・能力が、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理されている。また、小学校学習指導要領（平成 29 年度告示）解説総則編には、学習の基盤となる資質・能力が次の通り示されている。

各学校においては、児童の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。

このうち、「言語能力」の育成には、国語科の果たす役割が大きいとされている。令和 2 年度から学習指導要領が完全実施されたことを受け、学習指導要領の理解と具現化を図る立場から、本研究を推進するものである。

4 子供の実態から

これまでの実践研究より、子供の姿として、次のような成果と課題が挙げられる。

- 「国語に関する意識調査」において、国語の学習が好きで意欲的に取り組んでいる子供が多く、自身の言語能力の伸長を自覚できるようになってきている。
- 学年の学習内容を概ね身に付けている。
- ▲身に付けた言語能力が、実の場で使えるものになっていない。

ここで言う、子供が伸長を自覚できている「言語能力」とは、「話すこと」「聞くこと」「話し合うこと」「書くこと」「読むこと」「考えを深めたり広げたりすること」など、「国語科固有の資質・能力」に関わるものである。一方で、実生活や他教科へも汎用性をもつ言語能力については、その具体が明確ではなく、子供の自覚化に至っていない。

現状の課題を改善するために、汎用的な資質・能力である言語能力を明確にする（研究内容 1）と共に、国語科で身に付ける学習内容（国語科固有の資質・能力）と、汎用的な資質・能力とを、授業の中で相互に関連付けながら一体的に高めていくことが必要であると考えた（研究内容 2）。

以上のことから、「学習内容（国語科固有の資質・能力）をよりよく獲得し、活用できる子供の育成」を目指し、『学びを推進する力』を意識した授業づくりを通して実践研究を行うこととした。

令和2年度～5年度 主題研究推進の経過

《学校教育目標実現のためのカリキュラム・マネジメントの中に位置付く主題研究の推進》

《資質・能力の育成を目指した国語科の授業づくり》

◆1年次（令和2年度）◆ 理論研究中心

○研究理論の構築

- ・「国語科で育む資質・能力」、「『主体的・対話的で深い学び』を実現する授業づくり」についての研修
- ・授業実践に基づいた研究理論の見直し
- ・本校の子供の実態に照らした研究理論の構築
- ・研究理論を具現化する指導案様式の検討
- ・「学びを推進する力」（城南小学校版 汎用的な資質・能力）の規定



◆2年次（令和3年度）◆ 授業実践研究中心

○研究理論に基づく授業づくり

- ① 「重点指導目標」の明確化
 - ② 働かせる「言葉による見方・考え方」の明確化
 - ③ 発揮させる「学びを推進する力」の意識化
- ・年度前半：領域研究部会体制での授業づくり→学校公開研究会におけるチームによる授業提案

第40回 学校公開研究会（中間発表）

「学びを推進する力」を発揮しながら言語能力をよりよく獲得していく子供の育成—資質・能力の調和的な育成を目指した国語科の授業づくりを通して—

○午後半日公開（事前説明・授業・研究会）

○読むこと・話すこと聞くこと・書くこと（低・中・高）の3学級公開

- ・年度後半：学年、学団研究部会体制での授業づくり→全学級の授業提案



◆3年次（令和4年度）◆

○研究理論の見直し

- ・「学びを推進する力」の共有 ・検証方法の検討

○研究理論に基づく授業実践の積み重ね

- ・「学びを推進する力」の整理を行いながらの授業実践



◆4年次（令和5年度）◆

第41回 学校公開研究会（本公開）

学習内容（国語科固有の資質・能力）をよりよく獲得し、活用できる子供の育成

—「学びを推進する力」を意識した授業づくりを通して—

※「学びを推進する力」＝城南小学校で規定した汎用的な資質・能力

○1日公開（授業・全体会・研究会・講演会） ○全学級公開